

（公財）神戸大学六甲台後援会だより

（77）

令和6年度前期の講義を開始してから1ヶ月ほどが経過しました。授業は昨年度に引き続き、原則対面形式で行われていきます。コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したのが昨年にも手探りのようなところがありましたが、現在ではすっかり平常に戻った感があります。マスクを着用する学生としない学生が混在することも、日常の風景として定着しているようです。

遠隔授業の経験と試行錯誤

コロナ禍は、大学関係者に遠隔授業の存在を強力に意識させる契機となりました。しかし、授業は対面という考えは根強く存在しています。対面授業を何よりも求めているのが、文部科学省が定める大学設置基準です。大学において、多様なメディアを高度に利用した授業を実施することが認められる一方で、このような授業が卒業に必要な単位数として認められる数には上限があります。また、実施可能なメディア授業は、同時双方向の教室に近い環境で行われるか、または授業終了後すみやかに適切な十分な指導を併せ行うことができるものという要件が付されており、教室だと授業の前後に質問を受けることができませんが、あらかじめ授業動画や音声を記録し、それを学生が視聴するという形のオンデマンド型の遠隔授業の場合、質疑応答の機会を別途用意しておく必要があります。ZOOMなど

のビデオ会議システムを前に教員がしゃべるだけ、という授業ならば教室での授業と大差ない負担で実施可能ですが、オンデマンド型の授業の場合、事前の動画の作成を含め、教室での授業以上の準備が求められることとなります。コロナ禍前に、大学授業の一般公開としてMOOC（Massive Open Online Course、大規模公開オンライン講座）が多くメディアに取り上げられたことがありましたが、このような準備負担もあつてか、現在においても日本でMOOCが十分な市民権を得たという印象はありません。

コロナ禍の下でも対面授業を希望する学生や保護者の声も多く、また、実際に教室で授業を行うと学生の反応が生で得られるというメリットも大きいものです。教室ですと顔を見るだけで、話したことがどの程度理解されているかを把握でき、補足が必要であればその場で追加的な説明を行うことができます。他方、ビデオ会議システムで授業を行うと、消極的であった学生の反応がチャット等で得られる、というメリットが語られることもあります。しかし、受講する学生のプライバシーという問題があるため、お互いを知り合ったゼミのような小規模授業でない限り、学生は自身の端末のカメラをオンにしませんし、大学も推奨しておりません。教員は画面に向かって講義を行うのですが、内容が理解されているのか、されていないのか、不安を持ちながら進めていくこととなります。

遠隔授業はどちらかというの特例として認められていたのですが、他方、コロナ禍の下での全面遠隔授業の経験は、全く忘れ去られた訳ではありません。部分的にかもしれませんが、大

学の中に、深く入り込んだといえるでしょう。六甲台に特有の事情かも知れませんが、一つが教室の制約緩和手段としてです。大教室授業の一部では、多くの履修者を受け入れるために、教室の収容定員を超える学生の履修を認めています。コロナ禍以前は、問題とはされつつも、徐々に教室に来る学生は減るだろうという認識で、直ちに対処しなければならぬ問題であるという認識は強くなかったように感じます。コロナ禍とそれに伴う遠隔授業を経験した現在では、教室と遠隔を併用した学生の受講機会の確保が要請されています。例えば、一部の回の授業を遠隔授業の形で実施することや、教室に入ることのできる学生数を制限して、教室への入室が認められない学生については遠隔での受講を要請するということが行われています。また、社会人学生が多く履修する一部の大学院の授業では、遠隔での履修が併用され、仕事帰りの学生に履修機会を提供しています。ゲスト講師に遠隔で授業してもらうこともあります。このように遠隔授業には様々なメリットがあるのですが、学生は学生で、教室に来る必要がないと判断すると、多くが遠隔での受講に切り替えてしまいます。大教室授業で多くの学生が授業を聞いているのに教室はガラガラ、ということも出てきました。

対面授業は必須なのか

大学では対面授業を原則としていますが、さまざまな教育機関や教育産業では遠隔化やそれを含めたデジタル化が進められています。大学受験向けやその他さまざまな予備校では、古くから録画視聴形式による授業が行われてきました。大教室を持

たずに授業は動画配信、駅ごとに存在する教室にはチューターのみが存在する形です。教室を持たず、完全にオンラインで完結するサービスも生まれています。名物講師の授業を、場所や時間の制約なく受けることができる訳です。このような授業は、前述のMOOCと同様の発想だと考えられますが、大学の授業と比較しても規模が格段に大きいため、事業として十分に成立するようです。

では、大学でこのような授業は可能でしょうか。実は大学で講義される授業の多くは、標準的な内容を持っています。教える大学が変わっても、年度が替わっても学生が理解しなければならぬことは大きく変化しません。もちろん、大学ごとに範囲や水準は異なり、教員は毎年授業内容を見返して更新を続けています。しかし、もし一部の授業がオンデマンドで録画映像の配信で行われるならば、教室規模の制約は外れることになります。また、もし教員の教育リソースに余裕ができたならば、その余裕を密度の濃い、対面での少人数授業へと振り向けることも可能となるかもしれません。何がベストの授業の形であるのか、考え続けることが必要でしょう。

教室で授業をできることの幸せ

2021年のロシアのウクライナ侵攻以降、世界の情勢が不安定化しています。文字通り戦地となり、授業どころではない場所が生まれ、アメリカでは大学構内でのデモ活動に対して警察が介入するという事件が発生しました。阪神・淡路大震災などの自然災害や記憶に新しいコロナ禍の下でも、授業は中断さ

れました。静穏なキャンパスで、勉学や研究に集中できることの幸せをかみしめつつ、望ましい大学の姿を考え続けて行きたいと思います。

(経営学研究科教授 清水泰洋)

令和6年度事業計画について

公益財団法人神戸大学六甲台後援会は、財団設立以降、主に本学の社会科学系部局の学術の発展と教育の充実に寄与することを目的として次のような事業を行っています。

- (1) 学術交流の促進に対する助成
- (2) 学術成果の公開に対する助成
- (3) 教育の充実に対する助成
- (4) 学術基盤の整備に対する助成
- (5) 学術交流施設の維持管理

さて、令和6年度事業計画につきまして、その概要をご報告申し上げます。事業計画は、昨年12月、社会科学系各部局に対して助成事業の募集を行い応募申請された各種事業について、それぞれの事業が本財団の公益事業として相応しいかを理事会において審査し、承認されたものです。

このような各種事業は、皆様から今までにいただいた寄附金の運用収益や新たに卒業生の皆様等からいただいた貴重なご寄附により行っています。(単位万円)

1. 学術交流の促進に対する助成	計	1,850
(1) 海外研究活動支援		1,085
ア. 海外派遣支援		

イ. 外国人研究者招聘支援

- (2) 学会・シンポジウム・カンファレンス・ワークショップ等開催支援

2. 学術成果の公開に対する助成

- (1) 学術研究成果刊行に対する支援

3. 教育の充実に対する支援

- (1) 学部学生の教育に対する支援

ア. 成績優秀者に対する奨学金支給(社会科学特別奨励賞)

イ. 4年間の成績優秀者に対する支援(六甲台賞)

ウ. 各部局における各種教育プログラムに対する支援

エ. 学部学生の海外派遣に対する支援

オ. 学部相互履修科目開講支援

カ. キャリア形成に対する支援

(2) 大学院学生の教育に対する支援

ア. 各部局における各種教育プログラムに対する支援

イ. 大学院生の海外派遣に対する支援

ウ. 神戸大学MBA加護野忠男論文賞

エ. エクスターンシップ実施支援

(3) 特定の基金による学部学生及び大学院学生の教育に対する支援

ア. 凌霜研究奨学基金による教育に対する支援

イ. 田崎奨学基金による奨学金支給

ウ. 久研究奨学基金による海外研究活動に対する支援

4. 学術研究に対する支援

- (1) 研究プロジェクトに対する支援

(2) 社会システムイノベーションセンターに対する支援

(3) 特定の基金による学術研究に対する支援

ア. 裏山研究奨学基金による学術研究に対する支援

5. 学術基盤整備に対する支援 計 430

6. 学術交流施設の維持管理による学術交流の促進に関する事業 計 30

合 計 4,644

六甲台賞の授与について

令和5年度の「六甲台賞」が各学部において授与されました。

六甲台賞は、六甲台3学部を卒業する者で、各学部において学業成績が最も優秀であった者に対し、その努力を讃えるため授与されるもので、令和元年度に神戸大学六甲台後援会が凌霜43年会から引き継いだものです。受賞されたのは次の方々です。

(経済学部) 服部翔真、(経営学部) 横大路真仁、(法学部) 井田茉莉花の皆さんです。

神戸大学MBA加護野忠男論文賞の授与について

3月30日(土)、令和5年度MBA加護野忠男論文賞の授与式が行われました。受賞されたのは、金賞は秦 真人氏の「建設業の人材定着マネジメント―建設業特有のものづくりプロセスと離職に関する研究―」、銀賞は桐島寿彦氏の「高齢者のがん医療における便益形成と治療への参加意欲を高める要因に関する研究―便益遅延性に着目して―」、銅賞は竹村 誠氏の「農業協同組合におけるデータ包絡分析法による効率性分析と経営

実態に関する研究」です。

なお、MBA加護野忠男論文賞は、神戸大学MBA内部で行っていたものを令和2年度から神戸大学六甲台後援会の事業として行っているものです。

いつも皆様のご寄附誠にありがとうございます

前号でご報告させていただいた以降、年度末までに次の皆様からご寄附をいただきました。

金額別に、萬里小路通真様(昭56法)、太田義人様(昭51経営)各1万円、渡会武嗣様(昭30経営)5万円、平岡真樹郎様(昭29経済)、酒井國男様(昭31経済)、入谷芳久様(平21経営)各10万円です。

これで令和5年度中の受入額は、合計739万421円になりました。

令和6年度になつてからは(5月10日現在)岡見晴児様(昭33法)1万円、吉田昭彦様(昭32経営)2万円、三宅基治様(昭44経済)3万円、岡村二郎様(昭34法)、新庄浩二様(昭38経済)、森 薫夫様(昭44経済)各10万円、根岸 哲様(昭40法)20万円。計56万円をご寄附いただきました。誠にありがとうございます。毎回お願いしています寄附金の送り先は左記のとおりです。

◎銀行送金の場合(メール・電話・FAXでも結構ですから、送金のことについて事務局にご一報ください)

銀行名 三井住友銀行六甲支店

口座番号 普通預金 4069496

口座名義 公益財団法人神戸大学六甲台後援会

◎郵便振替の場合（通信欄に卒業年次と出身学部をご記入ください）

口座番号 00980-9-116772

口座名義 公益財団法人神戸大学六甲台後援会

◎本財団ホームページからのご寄附

ホームページ「ご寄附」のWEB申込みフォームからご寄附いただけます。<https://www.rokkodaifund.com>

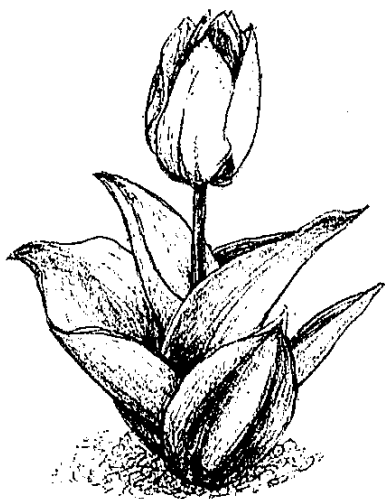
〒657-0068

神戸市灘区篠原北町4-11-5

公益財団法人神戸大学六甲台後援会事務局

電話・FAX (078) 861-3013

E-mail: koenkai@rokkodaifund.com



チューリップ 玉糸

国民経済雑誌 第228巻 第1号 (令和6年3月) 2

特集

経営学における質的研究のフロンティア

論文

マンガに見るサラリーマンのワークライフバランス……………	鈴木	木竜	太
企業家を支援しつづけること……………	吉田	満	梨
	伊藤	藤智	明

講演記録

経営学におけるオートエスノグラフィーの導入： 研究者がひとびとの心に刺さる本を書く意味……………	高橋	勅徳
市民科学の経営論： 生態学と経営／経済学の重なるところ……………	森井	悠太